

By. Ahmad Dahidi

はじめに

「将来、何になりたいですか。」という質問に対して、多くのインドネシア人（特に昔の子度たち）はほぼ統一された理想を持っていました。お医者さんになるのは大人気です。その次は飛行士なのです。時代、年齢、教育などの変化につれて、変ることが多いようです。例えば、インドネシア人学生や若手を中心とした LinkedIn 調査（対象者数はインドネシア人 1000 名）に基づいて、人気のあるのは IT と金融業界に関連する仕事だそうです。今日の学生の間ではますます人気が高まっているようです。その理由は「時間の経過に伴う夢の仕事の進化は、新しい能力やスキルに対する関心と欲求の変化を表しています。今日、ますます需要が高まっている IT および金融スキルの例です。」と LinkedIn の東南アジアおよび北アジア通信担当責任者であるリンダ・リーが言っていました。また、その調査には学生の場合、起業家、IT 専門家、会計士、金融または銀行、科学者またはエンジニアのような職業が大人気のようにです。その間、若い専門家には、医者、看護師、ビジネスマン、教師、軍、科学者、エンジニアのキャリアになることを夢見ていたと指摘されました。

人の夢は変るということは当たり前のことだと思います。つまり、年齢の変化につれて、そのまま変わらない人もいますが、そうでもない人もあると思います。私はどちらかというと、変りました。子度のころは電気の専門家になりたかったのです。その理由は小学校の時、先生や父から Ampere Michael Faraday の人物の話を聞いたことがあるからです。

周知のとおり、ファラデー (F a r a d a y) は 1971 年 9 月 22 日にイギリスのニューイントンバッツで生まれた電気発明の人物です。ファラデーには 9 人の兄弟がいて、13 歳までは地元の小学校しか味わえないとのこと。私はそれを聞いて、電気を知りたいと思っており、専門高等学校（電気系）に入りました。卒業してからはバンドン工科大学の電気学科に入りたかったのですが、縁が無くて、失敗でした。たぶん、日本や日本語と縁があるということなので、結局はインドネシア教育大学日本語教育学科（当時：バンドン教育大学日本語学科と言う）に入学して、進学することになりました。私のような小さい時の夢と大人になる夢は変わったということは他の人も多いようで、同じ現象のようです。

ところで、本稿にはとくに我が大学日本語教育学科の学生の夢はどうでしょう。ここで本の一部を紹介したいと思います。

作文から見た学生の夢

1. Nurul は二年生の後期の学生です。彼女はこう書いています。私は 小学校から、番組でアニメを見たことが好きでした。それから、中学校でたくさんアニメを見て、そこから日本語を知り始めました。その時、日本語を聞くと、かわいくて、おもしろいと思います。アニメで聞いたことばを書くことが好きなのです。でも高校の時に、日本語の科目があつて、中学校の時の書き取った言葉のメモを見て、笑いました。たくさんことばの発音が似ていても、すべてのたんごがまちがっていましたから。高校の卒業の前は最初は先生になりたかったと思って、大学で教育学科に入ろうと考えました。そして、日本語教育学科に入って、日本語をもっと勉強したいと思います。
2. Ninda Gina さんは次のように書きました。なんで日本語を勉強するのかという理由は、私は日本の事が好きだからです。日本の音楽、舞台、ミュージカル、アニメ、漫画、小説、全て好きです。いつか日本で生活をしたいです。あそこで勉強するつもりなんです。できれば仕事も日本と関係がある仕事をしたいです。それはもっと楽しいとおもいます。なぜ日本と言う国はすごくきれいだったのかを知りたくて、そのために日本語を勉強しているのです。
3. Muhammad Rayhan Fasha Maulana は初めて日本語に興味を持ったのは、高校3年の時だったと書いていました。日本には能や生け花など伝統的なものがあることをインターネットで知りました。アニメとマンガもインターネットから知りました。そして、日本という国はどんな国なのかを知りたくて、日本文化も知りたくて、日本語を勉強することにしたとのことです。
4. Widari Tannia Rizky は次のとおりです。子供の頃から、たくさんの言語で話せる人はカッコいいといつも思っていました。大きくなったら語学教師になりたいなと思っていました。私は小学校の頃から母から英語を教えてもらって、まあ、かなり上手です。それから私は別の言語も学びたいです。たくさんの言語を学びたいと思いましたが、どんな言語から始めればいいのかわかりません。スペイン語、フランス語、ロシア語、ドイツ語、中国語、日本語などです。高校では三年生に、日本語の被験者がありました。なぜなら私は職業高校で学んだから、多くの学生たちが卒業後すぐに働きます。だから、私の学校では日本語を教えています。なぜならカラワンという町には日本企業が多いからです。それから、高校の二年生のとき、母が私に友達の前には早く学び、理解できるように学校の外（塾）で日本語コースを受講したいかと尋ねました。あの日本語学校では、先生が日本に住んでいたのだから、日本語についてよく知っています。その先生から知識を得ました。そこからは、日本で2年以上生活したいと思っています。そして今、私は少なくとも一度は日本で留学生プログラムとして勉強することを望んでいるところです。
5. Nofrida Setianti Putri. 私が初めて日本語を勉強したのは、高校2年の時でした。高校の時、私は日本のことはあまり知らなかったのです。勉強した後、私は日本に興味があると思います。日本ではたくさん面白いことがあります。それで日本語を勉強したいと思います。
6. Shofia Kartika は子供の頃は英語が大好きだったので、外国語を話す人はカッコいいといつも思っていました。高校生の時は英語や日本語でよく競いました。また、文化の美しさや人々の考え方を理解できるので、文化を学ぶのも好きです。言語と文化を学ぶことは私の情熱です。また、私は言語と文化を学ぶことは非常に美しいと思い、それを学生に教えて、そのような教師に

なりたいと思います。そうことで、私はUPIの日本語教育学科に入って、今日本語の先生を目指しています。

7. Marsya Nur Azizah はなぜ日本語を勉強するかとうこと、彼女が初めて日本に興味を持っていたのは、漫画から小学の時でした。私は日本の漫画やアニメや食べ物などの関心を持ちました。でも、その時、私は日本語を勉強したことはありません。大学に入ってから、日本語を勉強しはじめました。日本語の勉強は大変ですが、だんだん面白くなりました。将来、機会があったら、小説の翻訳者になりたいと思います。
8. Zulfa はなぜ日本語を勉強するか? 彼女は次のように答えました。私は日本に住みたいから、日本語を勉強します。日本のことを調べるために日本語を勉強します。日本の文化はたくさんあるし、面白いと思います。そして、日本には美味しい料理もたくさんあります。私は小学生の4年生から日本語を勉強し始めました。いつか、日本の会社で働くこともいいし、翻訳になることもいいし、日本語の教師になることもいいと思います。
9. Fahmi は日本語に興味持ったのは高校1年生の時からでした。もともと日本にはアニメやマンガなどから興味を持ちましたけど、しんげんに日本語を勉強することはなかったのです。でも高校1年生のときは留学に興味がありましたから、それで今もそうですが、その理由でわたしは日本語を学んでいるのです。
10. Erika Afrilia Hasanah は高校の一年生の時に日本のアニメに興味を持っていました。その時、私は日本についてのすべてに興味深いものでした。日本の文化、漫画、日本語などです。大学に入ったからは一番興味のあるものは日本語です。そして、日本語を勉強するために、UPIに入ることにしました。早く卒業したいと思います。ですから、今はこれから私は一所懸命に日本語を勉強するつもりです。それから、両親と日本へ旅行をしたいと思います。
11. Puti Nur Sya'bani が初めて日本に興味があったのは、中学校2年の時でした。兄から、あの時はやっていたアニメを見せてもらって、日本のアニメや文化に気がしました。そのあと、だんだんひらがなやカタカナ、漢字などを勉強し始めました。そのおかげで、高校の時、ひらがなや漢字が読めるようになり、いろいろな日本語コンテストに参加しました。高校3年の時、なんとなく日本へ留学したいと思っていました。日本へ留学出来るためには大学で日本語を勉強することにしました。今は一生懸命、日本語を勉強して、いつかきっと日本へ留学の機会が来るのを信じています。
12. Arisnati Maulidania が日本語を勉強する理由は、日本に行って日本の会社で働きたいと思っているからです。日本は先進国であり、そこで働き、そこで修士号を取得したいです。
13. Panji Pamungkas は高校で日本語を最初に学びました。その時は日本に行きたいと思っていました。そして当時、私は日本語教育専攻を選ぶことを目指していました。今の私の理由は日本で働くことですが、子供も日本語を話せるように日本に滞在することも考えています。

結び

以上、日本語の勉強する理由とその将来の夢を 13 名の学生の声を紹介しました。この学生たちは二年生の後期です。彼らが書いた作文の中から見ると、ほとんどの学生は、日本語に対する動機付けは高等学校のころのようです。特に、日本のアニメや漫画は日本や日本語に関する学生の心を引っ張られる道具として、非常に有効のようです。興味深いのは彼らがどんなアニメやどんな漫画を見たのか、これは今後の課題です。

そして、学生の将来の夢をみると、バリエーションです。つまり、日本語をマスターできれば、日本に住みたい、日本の文化や日本語をもっと勉強したい、日本に留学したい、日本の会社に働きたい、などなどです。もちろん、日本語の先生になりたい学生もいるのです。

このような学生の夢を実現するにはもちろん、私たちの力が必要なのは言うまでもないことです。この力というのはアドバイス、勉強の動機付け、面白い勉強しやすい教材開発、面白い教え方、講師と学生との人道的な人間関係のようなより分陰気を作り出す努力が必要なのではないでしょうかと思います。

バンドンにて、2020年9月4日（金）